

令和5年度 第1回 太良高等学校 学校運営協議会（学校魅力強化委員会）会議録

「佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱」第8条第2項に基づき、次のとおり、第1回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）の会議録などを公開します。

【期日】 令和5年 6月 23日（金）16:00～17:00

【場所】 太良町の割烹ひさご

【出席者】 学校運営協議会委員 12名（うち代理1名）、本校事務局教職員 11名、佐賀県教育委員会事務局 1名

【会議の内容】 以下のとおり。（全体の進行は指導教諭が行った）

1. 開会

2. 学校長挨拶

太良高校は開校47年目を迎えました。私は20代目の校長として着任しました。代々引き継がれてきた地域との連携を更に強めていきたいと思っています。これまでも地域連携協議会などご協力いただきましたが、学校の活動を報告し御意見を頂くだけで終わってしまい、なかなか学校の活動に協同していただくまでにいたっていませんでした。太良高校が地域振興に貢献できるような活動をし、地域の方々と共に学校の魅力を高めることができたらと考えています。既成概念に捉われることなく活動していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 教育委員会事務局挨拶

佐賀県では、令和3年から「唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクト」に取り組んでいます。その一環でSAGA コラボレーション・スクールの重点校に太良高校が選ばれています。学校と地域が協働して学校の魅力を高めていこうという取り組みです。太良高校は、以前より太良町と一緒に活動して特色を作り上げてきました。その特色をより一層磨き上げていただき、中学生が太良高校に行きたい、保護者が太良高校に通わせたいと思う魅力ある学校になっていただきたいと県教委としても考えているところです。みなさんに色々な知恵をいただきながら、学校の在り方、魅力化に意見をいただきたい。また、県教委にもご意見をいただき、吸い取って検討していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

4. 任命状交付

委員の推薦については「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」第3条に基づき、学校所在地の地域の住民、生徒の保護者、学校の運営に資する活動を行う者などを含めて選出し、県教育委員会が任命するものとなっている。佐賀県教育委員会事務局 より各委員に任命状を手交した。

5. 委員の紹介

出席者（委員12名（うち代理1名））より、自己紹介を行った。

6. 会長及び副会長の選出

「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」第6条第1項に基づき、会長に塚本一茂委員、副会長に行平真也委員を、委員の1人である学校長が推薦し、承認された。

7. 協議（進行は会長に交代した）

（1）令和5年度太良高等学校学校運営協議会活動計画（案）について

学校運営協議会設置について配布資料に基づき指導教諭が説明を行った。

協議会は年6回を予定しており、協議内容については、配布資料に示している通りを予定しているが、協議内容についても委員からご意見をいただきたい。

（2）学校評価計画について

本年度の重点目標や重点取組について配布資料に基づき教頭が説明を行った。

学校運営協議会とは性格的には合議体であって、例えば校長が変わっても、学校運営協議会があるから学校がぶれずに運営していくという趣旨のもと開催されているものである。前任の校長が新体制を強く希望し、緒方新校長も新しい体制の協議会をとる意志のもと、新しいメンバーを作成した。

本来ならば、協議会で揉んで学校評価計画の目標を作成するところだが、新体制を組織するにあたり、協議会の開催が遅れたため、「学校教育目標」と「本年度の重点目標」は先に作成させていただいた。承認をいただきたい。今後の協議会の中で来年度の作成に向けて、意見などをいただきたい。

「重点取組内容・成果指標」については、各校務分掌で目標を決めて、毎年、中間発表、最終評価はHP等でもアップしている。今年は記載している目標でやっていくことを校務分掌で決めてもらっている。中間目標と最終目標に関しては、委員から意見をいただき、最終的に作り上げたいと思っているのでよろしくお願いいたします。

「本年度重点的に取り組む独自評価項目」については、佐賀県の「唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクト」においてPV撮影など様々な指定を受けているので、その部分で活動していきたいと思っている。

（3）地域連携等の取組について

地域と連携した教育課程の取組、太良町からの支援、太良町の行事への参加・協力について、配布資料に基づき指導教諭が説明を行った。

（4）SAGA コラボレーション・スクール事業計画について

SAGA コラボレーション・スクール事業と重点校の指定について、配布資料に基づき学校魅力化コーディネーターが説明を行った。

取組テーマ、課題及び事業目標、主な行事（実施済み・予定）について、資料に基づき指導教諭が説明を行った。

取組テーマについては、2024年、太良町で開催されることになっている国スポのソフトボール競

技への関わりを通して、地域と協働しながら生徒の多様な学びをさらに拡充し、生徒の成長を促すとともに、学校の魅力をさらに高めることなど地域と共に活動できることをテーマとしている。

(5) 意見交換

委員：学校魅力化というのは、結果的に県外や地域の子どもたちが学校に来てほしいというところから、スタートしている。ご存じの通り、現在、各県、生徒が減少している状況で、島根県のある島が、島唯一の高校が存亡の危機に瀕したときに、いろんな策を練って、島外から生徒が来るようになった。また、島の魅力を発信することもできた。このイメージをもって何ができるか模索していきたいと思っている。いろんな地域の行事に参加したり、いろいろやっていったりしていきけれども、最終的に子どもたちがそこに魅力を感じてくれるというところに着地したいと思っている。どんな意見でも結構です。よろしくお願いいたします。

委員：生徒自身が自分は太良高生だ、自分は太良高校を卒業したんだと自慢できるような体制にもっていくと、魅力が生まれてくるのかなと思う。私自身、一度県外に出て太良町にUターンしている。内外どちらからの太良町も見ている。そのことによって、歴史というものがどれだけ多良の魅力を語っているかがわかった。日本の技術、産業の発展の礎となった佐賀県。歴史学者の中では多良海道は、佐賀藩にとっての本通りだといわれている。その上では、多良を通して長崎から技術が佐賀に入ってきた。空海も多良岳の金泉寺で修業した。たくさんの有名な人が佐賀県から出ている。太良はすごいところなんだ。太良の高校ってこんなに魅力があるんだ。ということを学校でも伝え、自慢できる学校づくりができたらと思っている。

委員：4月の1日研修で生徒たちと一緒に多良岳に登った。最初は「きつい」と乗り気じゃなかった子どもたちも、「多良岳ってすごい!」「登ってよかった」「また行きたい」という声をたくさんもらった。多良岳を愛する会、太良町、県としても太良町のためのイベントをたくさん考えている。そういったときに、生徒たちに声をかけていいのか、チラシを学校に持参して誘うことは可能か。私たちの考えは、地域で子育てをしたいという思いがある。先生方も忙しいだろうから「地域のおんちゃんたちに任せんしゃい」という気持ちでやりたい。いい経験にもなると思う。中には登山部を作りたいという生徒もいた。

委員：登山部はいいなという思いはある。部活動の責任問題や安全面などの課題もあるが、部活動を地域に移行していくという考え方もある。生徒が主体的に集まり登山ができたらいいなという思いはある。

委員：全国的に少子化になり、学校も運営もどうかなという時代になってきたと思う。太良町にも危機感を抱いている。ざっくりいうと、全くよその学校にはないような、科や教科や科目を作って、地域のことを総合的に考えて学ぶスタイルを作ってもいいのではないかと思う。例えば、1年生で太良町には海や山があり、どういった産業があるのか学び、2・3年生ではその太良町をどうすればいいのかという地域の起こし方を学ぶ科をつくったらどうかと思う。そういった内容を考えていけば、ジ

ジャンルが広がると思う。

委員：狭義的な話になって申し訳ないが、太良町社会福祉協議会に勤めている中で、地域で生活をしている方々の悩み事を受け止めて事業展開している。太良町の人口が現在 8000 人、7 年後には 2000 人減ると考えられている。速度的にも、20 年で減ってきた数が 10 年で減ると考えられている。太良町の社会福祉協議会、医療団体等々集まって話している中で、人材確保が問題となっている。地域の様々なサービスの欠如が容易に予想される。今後、団塊の世代が減り、医療福祉の担い手が減る。現在の医療福祉の職員数 500 人。その 4 分の 1 がすでに高齢者。ここ 7 年で退職されると予想される。その結果施設がなくなり、サービス提供できず、家庭で介護が必要になり、若い世代の離職につながっていくことを想像すると、できることならば、太良高校をご卒業された方を、何とか地域の事業所で勤務いただいて、それは福祉、医療関係だけではなく、いろんな事業所で働いていただいて、太良町に住んでいただくみたいなことが、夢物語かもしれませんが、そういったことがあると、我々にとってはいい学校になるなど感じています。

委員：学校要覧を拝見していると、進学より就職が多い。太良町の事業所への就職の割合を増やしていただけたらと思う。特色のある学校というところで、現在の太良高校は普通科しかない。隣の鹿島高校には、食品衛生や商業科がある。観光協会の視点からですが、太良町で一次産業の方がいらっしゃらないと、観光業も成り立たない。観光を学ぶなどコースの新設も思い切って考えられると太良町の魅力を上げていくのではないかと。普通科だけよりは、選択肢の幅が広がるのではないかと考えている。

委員：太良に来て、太良で学ぶことによって地域課題に直面することができる。西九州新幹線の件もあって、交通課題があって、太良町が非常に厳しい中にあることで、太良町で過ごす 3 年間は日本の縮図を学ぶことができる。社会課題、地域課題を解決することに力を発揮できる学校であると前端的に押し出すことができればいいのではないかと考えている。

委員：特色ある学校づくりが太良町の魅力アップにつながると思う。現在、野球部の活動を「たらふる会」でサポートしている。太良を第 2 のふるさとにしてもらいたいという思いで「たらふる会」を作った。プロ野球に長年携わってきた永尾監督に指導していただいている。素晴らしい監督の指導のもと、次のステップに進んだ卒業生もいる。プロ野球出身の指導者が指導して甲子園に行きたいと会でも全面的に応援している。

8. 諸連絡

- ・ 次回の協議会の案内をした。
- ・ 議事録作成のため、事務局で記録や写真等をとらせていただき、HP 等に掲載することの了承を得た。

9. 閉会